



5:1 さて、ツロの王ヒラムは、ソロモンが油注がれて、彼の父に代わって王となったことを聞いて、自分の家来たちをソロモンのところへ遣わした。ヒラムはダビデと常に友情を保っていたからである。

5:2 そこで、ソロモンはヒラムのもとに人を遣わして言った。

5:3 「ご存じのように、私の父ダビデは、周りがいつも戦いを挑まれていたため、【主】が彼らを私の足の裏の下に置かれるまで、私の父の神、【主】の御名のために神殿を建てることができませんでした。」

5:4 しかし今や、私の神、【主】は、周囲の者から私を守って安息を与えてくださり、敵対する者もなく、わざわざいを起こす者もありません。

5:5 今私は、私の神、【主】の御名のために神殿を建てようと思っています。【主】が私の父ダビデに、『わたしがあなたの代わりに王座に就かせるあなたの子、彼がわたしの名のために家を建てる』と言われたとおりで、5:6 どうか、私のために、レバノンから杉を切り出すように命じてください。私の家来たちも、あなたの家来たちと一緒に働きます。私はあなたの家来たちに、あなたが言われるとおりの賃金を払います。ご存じのように、私たちの中にはシドン人のように木を切ることに熟練した者がいませんから。」

5:7 ヒラムはソロモンの申し出を聞いて、大いに喜んで言った。「今日、【主】がほめたように、あなたに。主は、この大いなる民を治める、知恵のある子をダビデにお与えになった。」

5:8 ヒラムはソロモンのもとに人を遣わして言った。「あなたが言い送られたことを聞きました。私は、杉の木材ともみの木材なら、何なりとあなたのお望みどおりにいたしますよう。」

5:9 私の家来たちは、それをレバノンから海へ下ろします。私はそれをいかに組んで、海路、あなたが指定される場所まで送り、そこでそれを解かせましょう。それを受け取ってください。それから、あなたは私の一族に食物を与えて、私の望みをかなえてください。」

5:10 こうしてヒラムは、ソロモンに杉の木材ともみの木材を、彼が望むだけ与えた。

5:11 ソロモンはヒラムに、その一族の食糧として、小麦二万コルと上質のオリブ油二十コルを与えた。ソロモンは、これだけの物を毎年ヒラムに与えた。

5:12 【主】は約束どおり、ソロモンに知恵を授けられた。ヒラムとソロモンとの間には平和が保たれ、二人は契約を結んだ。

5:13 ソロモン王は全イスラエルから役務者を徴用した。役務者は三万人であった。5:14 ソロモンは、彼らを一か月交代で一人ずつレバノンに送った。一か月はレバノンに、二か月は家にいるようにした。役務長官はアドニラムであった。

5:15 ソロモンには荷を担ぐ者が七万人、山で石を切り出す者が八万人いた。

5:16 そのほか、ソロモンには工事の監督をする長が三千三百人いて、工事に携わる民を指揮していた。

5:17 王は、切り石を神殿の礎に据えるために、大きな石、高価な石を切り出すように命じた。

5:18 ソロモンの建築者たち、ヒラムの建築者たち、そしてゲバル人たちは石を切り、神殿を建てるために木材と石材を準備した。

ヒラムは異邦の王であり、異教の王でしたが、主のために用いられるのです。このことに関しては、後のソロモンの失敗も含めて、重要なことを学ぶことができずなわち、よき信頼関係によって「友情」を保つこと、またその異教を持ちこまないこととです。そのようにしてノンクリスチャンの方とも交流を深めましょう。それはヒラム「【主】がほめたたえられずように。」と言ったように、伝道にもつながってゆくことでしよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

